

文部科学省

「地域社会に根ざした高等学校の

学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)」

成果報告書

岩手県教育委員会

1. 事業概要

1.1. 本事業に取り組む課題と目的

生徒数が減少する中、岩手を担う資質を有する生徒の育成及びより良い教育環境の整備を目指し、平成 28 年 3 月に 10 年間の「新たな県立高等学校再編計画」を策定し、県立高等学校全日制課程を再編制。1 学年 1 学級の学校 9 校を存続するなど、地域の状況等を考慮した学びの選択肢を確保した。

1 学年 3 学級以下の小規模な学校の割合が増加しており、今後、教員の数が減る中で、多くの学校において教育の質を確保することが課題。そのため、進学や就職等、生徒の多様な進路希望の実現に対応できる科目設定等の教育環境の整備が必要である。

持続可能な地域社会の形成に向けて、地域の状況に対応した人材の育成と、その人材を地域に還元することが急務。そのため、地域資源を活用した取組等により地域社会の魅力を生徒に伝え、自立した社会人・職業人として必要となる能力や、主体的に進路を選択できる能力を身に付けることができる教育環境の整備が必要である。

そこで、教育の機会の保障と教育の質の保証を柱としつつ、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりと高校を核とした地方創生に向けた取組を、ICT を活用して広域的に展開・実施し、1 学級校を含む小規模な学校においても、生徒の進路希望の実現に対応できるよう、本ネットワークによる研究を通して教育環境の整備を進め、地域を担う人材を育成するための知見を得ることを目的として実施する。

1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業など ICT も活用した連携・協働の取組について

- ・遠隔授業を、「教科・科目充実型」を柱として実施し、生徒の多様な進路選択の可能性を明らかにすること。
- ・オンラインによる効果的な指導と適切な評価の方法について明らかにすること。
- ・小規模校における遠隔システムを介した対話による、言語能力や問題発見・解決能力の効果的な育成方法について明らかにすること。
- ・構成校において、遠隔授業を効果的かつ効率的に推進するための校内組織のモデルを構築すること。

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組について

- ・学校間連携を効率的に運用するための、管理機関、CIO 及び構成校の管理職等の役割と連携方法について明らかにすること。
- ・学校間連携による授業研修モデルを構築すること。
- ・遠隔授業や探究的な学び等について、特色的な取組をしている構成校に関する情報を、オンラインを活用して共有するシステムを構築すること。

(3) 地域等との協働によるコンソーシアムについて

- ・これまでの各校における取組をさらに充実・発展させ、中山間地域の学校間での交流や、地域と連携した探究的な学びのモデルを構築すること。
- ・各構成校のコンソーシアム間の情報を円滑に共有し、各校の教育水準の向上を実現する運営体制のモデルを構築すること。

1.3. ロードマップ

(1) 1 年目

【組織の編制】

ア 配信拠点の組織編制

CIO を任用し、配信拠点の授業担当者を選定する。

イ 構成校の組織の編制

構成校における事業の実務担当者及び受信授業担当者を選定する。

ウ 運営指導委員としての外部有識者の選定

大学等に所属する外部有識者の選定を行う。

【遠隔授業】

ア 設備備品の調達と整備

配信センターの配信教室の整備と構成校の受信教室の整備を行う。

イ 試行配信及び講習会

2年目の教育課程内での本格実施に向けて、授業配信を試行する。また、構成校等において、受信に係る研修会を実施する。

ウ 教育課程の検討

2年目以降の各構成校の教育課程を、共通化の視点も含めて編制する。

エ 指導と評価方法の検討

単位認定に向けて、指導と評価の方法について研究する。

【地域との協働による探究活動】

「高校の魅力化促進事業」を基盤とした事業の拡充を図る。特にコンソーシアムの構築について重点的に取り組む。

(2) 2年目

【組織の編成】

配信拠点を開設し、専任の配信担当教員を配置する。前年度に引き続きC I Oを任用する。

【遠隔授業】

1年目に策定した計画に基づき、教育課程内での遠隔授業本格実施を開始する。指導と評価の方法について、随時評価・改善を行う。構成校5校で延べ6科目配信する。

【地域との協働による探究活動】

コンソーシアムの構築及び運営を支援する。教職員対象の魅力化フォーラムを開催し、コンソーシアム間の情報共有を図る。

(3) 3年目

【遠隔授業】

2年目の課題を検討する。配信科目の増加、受講生徒数の増加における課題を検証する。3年間の総括をし、次年度以降継続するための計画を策定する。また、県内の各学校に成果の周知をして普及を図る。

【地域との協働による探究活動】

2年目の成果と課題を踏まえて実施する。全県の生徒・教員・関係者を対象とした、探究活動発表会を開催し、生徒同士の学びの場を創出するとともに、県内の各学校に成果の周知をして普及を図る。

(4) 事業終了後

本事業の研究成果を基盤として、県内の中山間地域への遠隔授業、及び、地域の教育資源を活用した探究的な学びの推進を継続・拡充する。

2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

2.1. 調査計画

本県で導入した遠隔教育システムによる授業づくり、生徒の見取り、評価等について研究、検証を行う。関係者からのアンケートや聞き取りにより、随時評価・改善を行う。

COREネットワーク推進会議を開催し、運営指導委員を交えて取組を横断的に分析し、必要に応じて計画の修正を行う。

2.2. 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

① 管理機関の組織

ア 事業全体の統括

県教育委員会事務局学校教育室

イ 経理担当

県教育委員会事務局学校教育室

ウ 運営指導委員

・岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 市川 尚

・岩手県ふるさと振興部地域振興室 特命課長 増澤 亨

② 配信拠点（岩手県立総合教育センター内）の組織

ア 配信拠点の統括

C I O（会計年度任用職員）

イ 授業配信担当者

県立花北青雲高等学校教諭3名（構成校の教諭の職を併任）

ウ QCM（Quality Control Manager）を配置し、主として各構成校の地域との協働による取組等について、指導・助言を行う。

③ 事業の管理について

ア 管理機関

企画運営会議を開催し、配信拠点と各構成校の事業の進捗状況等を確認し、必要に応じて計画の修正や構成校への指導・助言を行う。また、年に2回有識者を含むCOREネットワーク推進会議を開催し全体の検証を行う。

イ 配信拠点

定期的に打合せ会議を開催し、管理機関からの指示や各構成校の事業の進捗状況を確認し、必要に応じて計画の修正や構成校への指導・助言を行う。

ウ 構成校

COREネットワーク推進チームを設置し、定期的実施検討会議を開催する。また、COREネットワーク推進会議に参加し、運営指導委員及び管理機関や配信拠点の各担当者と情報を共有し指導・助言を仰ぐ。

(2) C I Oについて

① C I Oの職：会計年度任用職員

② C I Oが担当する業務の内容

- ・主として配信拠点である岩手県立総合教育センターに駐在し、事業全体の運営実務を統括・担当する。
- ・配信拠点の遠隔授業に係る配信設備の管理に係る指導・助言を担当する。
- ・遠隔授業の全体指導計画を策定するとともに、今後5年間の遠隔教育に係る中期計画を企画する。

- ・ 遠隔授業担当者のアドバイザーとして指導方法等について指導・助言する。
- ・ 構成校における、遠隔授業に係る教職員研修を統括する。
- ・ 遠隔教育を実施していく中で明らかとなったハード・ソフト両面での課題を整理する。

2.3. 取組概要

月	実施内容
4年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配信拠点（F I Rセンター）開設 ・ 教育課程内での遠隔授業配信開始 ・ 対面授業① ・ 第1回企画運営会議 >令和4年度の年間計画の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成校訪問（県教委事務局） >実施状況確認、聞き取り ・ 対面授業② ・ 第1回企画調整会議 >令和4年度年間計画の確認
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回COREネットワーク推進会議 >令和4年度年間計画の確認
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔授業生徒アンケート >回答数 26：葛巻2、西和賀2、花泉9、山田8、種市5 ・ 第1回実証地域連絡会議（内田洋行主催） ・ 文部科学省による視察（花泉、種市、山田高校との情報交換） ・ 配信教員研修会 >遠隔システムの操作、生徒端末の操作を研修
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業③ ・ 夏季休業学習会（数学）、夏季課外（物理） ・ 遠隔授業担当教員の配置に係る協議（～12月） ・ 第2回企画運営会議 >授業配信における課題等への対応を検討、次年度計画の検討
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回企画調整会議 >授業配信における課題等への対応を検討
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回実証地域連絡会議（内田洋行主催） ・ 対面授業④
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ Webヒアリング（内田洋行主催、葛巻、西和賀高校参加） ・ 愛知県、広島県視察（県教育委員会） >愛知県総合教育センター、広島県教育委員会事務局、広島県立福山誠之館高等学校 ・ 令和5年度実施科目の調整（～2月） ・ 第3回企画運営会議 >授業配信における課題等への対応を検討、次年度計画の確定、令和6年度以降の計画の検討
5年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業（山田高校3年化学）

	<ul style="list-style-type: none"> ➢参加者 16 名 ・遠隔授業生徒アンケート ➢回答数 26：葛巻 2、西和賀 2、花泉 9、山田 8、種市 5
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県から視察来県（花泉高校 2 年数学） ・対面授業⑤ ・事業成果報告会（内田洋行主催） ・第 2 回 CORE ネットワーク推進会議 ・サポート教員アンケート ➢回答数 5 ・第 4 回企画運営会議 ➢授業配信における課題等への対応を検討、令和 6 年度以降の計画の検討
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者引継打合せ

2.3.1. 遠隔授業実施表

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	試行・本格実施の別（R3・R4・R5）	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/全授業回数
F I R センター	葛巻高校	理科	物理	3	無	専門性	R3：試行 R4：本格実施	教諭	R3：6 回 R4：96/101
F I R センター	西和賀高校	数学	数学探究	3	無	習熟度	R3：試行	教諭	6 回
F I R センター	西和賀高校	理科	物理	3	無	専門性	R4：本格実施	教諭	62/67
F I R センター	花泉高校	地歴・公民	政治・経済	3	無	専門性	R3：試行	教諭	6 回
F I R センター	花泉高校	数学	数学B	2	無	多用	R4：本格実施	教諭	64/73
F I R センター	山田高校	地歴・公民	政治・経済	3	無	専門性	R3：試行	教諭	6 回
F I R センター	山田高校	理科	化学	3	無	専門性	R4：本格実施	実習助手	59/65
F I R センター	山田高校	理科	物理	3	無	専門性	R4：本格実施	実習助手	102/109

F I R センター	種市高校	理科	化学	3	無	専門性	R3：試行	教諭	6回
F I R センター	種市高校	数学	数学B	2	無	習熟度	R4：本格実施	教諭	63/72

2.4. 取組内容

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

ア 遠隔授業を、「教科・科目充実型」を柱として実施し、生徒の多様な進路選択の可能性を明らかにすることについて

4月に県立総合教育センター内に遠隔授業配信拠点（F I Rセンター）を開設した。専任の配信担当教員3名を配置し、構成校5校に対して延べ6科目を教育課程内で本格実施した。科目の設定に際しては、専門性の高い指導の実施及び多様な教科・科目の開設を考慮した。

受講生徒を対象にアンケートを2回実施した。

通常の授業に加えて生徒の希望により、課外授業、面接指導を実施し、物理受講者6名中4名が理工系学部の大学へ進学するなど、生徒の進路希望を実現した。

イ オンラインによる効果的な指導と適切な評価の方法を明らかにすることについて

県立高校の全教職員及び生徒にMicrosoftアカウントを配付しており、Microsoft365を活用した授業を実施している。Microsoft365内のアプリケーションを積極的に活用した指導や評価の方法を研究、検証した。

ウ 小規模校における遠隔システムを介した対話による、言語能力や問題発見・解決能力の効果的な育成方法を明らかにすることについて

少人数授業での対話を重視した授業を実践した。また、Excelの共同編集機能を活用し、協働的な学びを支援した。

エ 構成校において、遠隔授業を効果的かつ効率的に推進するための校内組織のモデルを構築することについて

構成校における学校教育室や授業者との連絡窓口を副校長が務めることとし、教務担当やサポート教員との情報共有を図った。

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

ア 学校間連携を効率的に運用するための、管理機関、C I O及び構成校の管理職等の役割と連携方法を明らかにすることについて

C I Oとして前年度に引き続き、情報教育に詳しい退職校長を会計年度任用職員として雇用し、遠隔授業の統括を担った。週に1度の勤務日に授業参観を行い、授業法についての助言をした。また、対面授業に同行して構成校訪問を行い、管理職との意見交換や遠隔授業推進の助言をした。

高校教育課長、担当指導主事による構成校訪問や、COREネットワーク推進会議により、各校の事業についての理解を促進し、管理職に支援を依頼した。

C I O、担当指導主事、授業者による定例打合せを毎週金曜日の午後に行うことで情報共有を綿密に行い、課題の整理等をした。

イ 学校間連携による授業研修モデルを構築することについて

配信教員研修会を実施し、遠隔システムの操作、生徒用P Cの操作について研修した。

公開授業を実施し、県内高校関係者への周知を図るとともに、遠隔授業の質的向上のための取組の充実を図った。

ウ 遠隔授業や探究的な学び等について、特色的な取組をしている構成校に関する情報を、オンラインを活用

して共有するシステムを構築することについて

県教育委員会は、令和4年2月 note 株式会社と連携協定を締結し、全県立高校の note アカウントを開設した。各構成校は、取組に関する情報発信をした。

2.5. 考察

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業など I C T も活用した連携・協働の取組

ア 遠隔授業を、「教科・科目充実型」を柱として実施し、生徒の多様な進路選択の可能性を明らかにすることについて

受講生徒を対象とした I C T 活用・主体性に関するアンケート結果は、次のとおり。

遠隔授業受講生徒アンケート結果（回答数 26）

① 映像（カメラ映像、プレゼンスライド）などは見やすかった

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	100.0%	96.2%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	0.0%	3.8%

② 映像を見続けても、疲れることなく授業を受けることができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	88.5%	84.6%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	11.5%	15.4%

③ スピーカーからの音声は聞き取りやすかった

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	92.3%	88.5%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	7.7%	11.5%

④ 進んで学習に取り組むことができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	96.2%	96.2%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	3.8%	3.8%

⑤ Chromebook を授業者の指示どおり操作できた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	100.0%	100.0%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	0.0%	0.0%

⑥ 提出物をきちんと提出することができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	92.3%	88.5%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	7.7%	11.5%

アンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

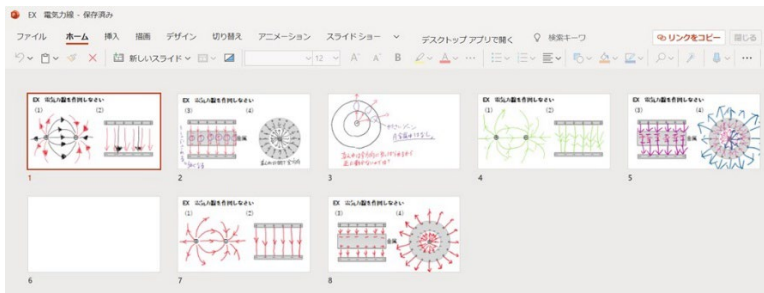
- ・導入した遠隔教育システムにより、授業実施体制が整っている。
- ・主体的に学習に取り組む態度が向上する可能性がある。

イ オンラインによる効果的な指導と適切な評価の方法を明らかにすることについて授業づくり、生徒の見取り、評価等についての実践を以下に示す。

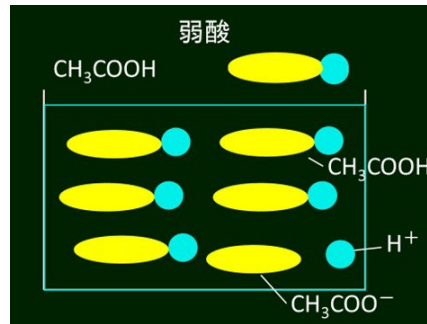
- ・ 授業者が資料の提示、解説をスムーズに行えるように、受信生徒モニタ用端末と配信操作端末の2台を使用



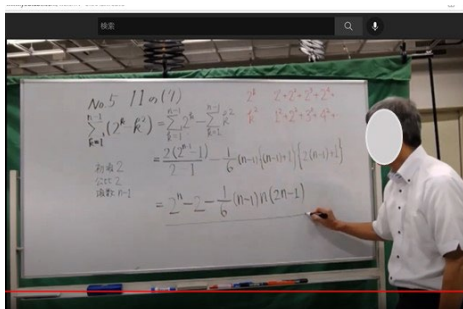
- ・ PowerPoint を活用した共同作業により、学習状況をリアルタイムに把握することで、理解度に応じた支援が可能



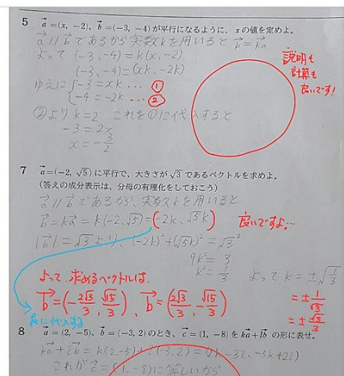
- ・ PowerPoint のアニメーションやデジタル教材を活用することで、視覚的な理解を促進



- ・ Teams 内に復習用のスライドや解説動画等をアップロードすることで、生徒は常時、端末から家庭学習に取り組める。



- Teams を活用した課題の管理により学習状況を把握し、理解度に応じて個別に支援



- Forms による小テストや振り返りなどを、評価する材料とした。



- 欠席者への対応として、Teams で授業の様子をレコーディングし、オンデマンド配信。自宅から授業に参加することも可能。



受講生徒を対象とした生徒の理解度に関するアンケート結果は、次のとおり。

遠隔授業受講生徒アンケート結果 (回答数 26)

① 遠隔授業は分かりやすかった

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	96.2%	96.2%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	3.8%	3.8%

② 先生の説明を集中して聞くことができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	100.0%	96.2%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	0.0%	3.8%

実践やアンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

- ・アプリケーションやデジタル教材の活用により、生徒の理解を支援することができる。

ウ 小規模校における遠隔システムを介した対話による、言語能力や問題発見・解決能力の効果的な育成方法を明らかにすることについて

少人数授業での対話を重視した授業を実践した。授業者は意図的に生徒個人への声掛けを増やした。また、生徒理解を深め、授業を円滑かつ効果的に実施するため、対面授業を行った。生徒との関係づくりのため、4月の1回目の授業を対面とした。対面授業の実施状況を以下に示す。

対面授業①

期日	構成校	教科・科目
4月12日(火)	西和賀高校	物理
4月12日(火)	種市高校	数学B
4月13日(水)	花泉高校	数学B
4月13日(水)	山田高校	物理
4月14日(木)	山田高校	化学
4月20日(月)	葛巻高校	物理

対面授業②

期日	構成校	教科・科目
5月18日(水)	花泉高校	数学B
5月19日(木)	山田高校	物理・化学
5月20日(金)	種市高校	数学B
6月1日(水)	花泉高校	数学B
6月3日(金)	葛巻高校	物理
6月6日(月)	山田高校	化学・物理
6月7日(火)	西和賀高校	物理
6月7日(火)	種市高校	数学B
6月15日(水)	花泉高校	数学B
6月16日(木)	山田高校	物理・化学
6月16日(木)	西和賀高校	物理
6月17日(金)	山田高校	物理
6月17日(金)	種市高校	数学B
6月20日(月)	葛巻高校	物理

対面授業③

期日	構成校	教科・科目
8月25日(木)	山田高校	物理
8月26日(金)	種市高校	数学B
8月31日(水)	葛巻高校	物理
8月31日(水)	花泉高校	数学B
9月1日(木)	西和賀高校	物理
9月9日(金)	種市高校	数学B
9月14日(水)	花泉高校	数学B
9月15日(木)	山田高校	化学

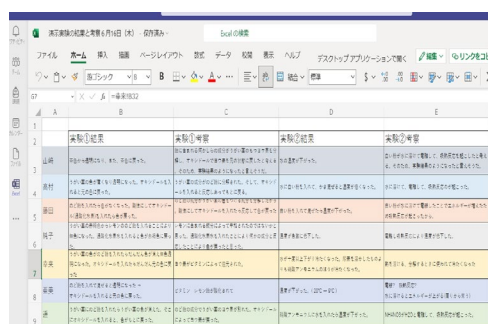
対面授業④

期日	構成校	教科・科目
10月26日(水)	花泉高校	数学B
11月4日(金)	種市高校	数学B
11月7日(月)	山田高校	化学
11月14日(月)	山田高校	物理
11月16日(水)	花泉高校	数学B
11月17日(木)	西和賀高校	物理
11月18日(金)	種市高校	数学B
11月18日(金)	葛巻高校	物理

対面授業⑤

期日	構成校	教科・科目
2月22日(水)	花泉高校	数学B
3月3日(金)	種市高校	数学B

また、Excel の共同編集機能を活用して実験結果や考察を集約。1枚のシートで、全員の結果や考察を共有できる、協働的な学びを支援した。



受講生徒を対象とした対話、表現に関するアンケート結果は、次のとおり。

遠隔授業受講生徒アンケート結果（回答数 26）

① 授業では、自分の考えを表現（書く、話すなど）できた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	100.0%	96.2%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	0.0%	3.8%

② 先生の質問に答えることができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	96.2%	100.0%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	3.8%	0.0%

③ 普段の授業と同じように、先生に質問することができた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	84.6%	76.9%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	15.4%	23.1%

④ 普段の授業と同じくらい、先生との会話がスムーズにできた

	7月実施	1月実施
「そう思う」「まあそう思う」	84.6%	73.1%
「あまりそう思わない」「そう思わない」	15.4%	26.9%

アンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

- ・自分の考えを表現する力を高める効果がある。
- ・教員とのスムーズな会話や質問に課題があり、教員とのコミュニケーションをさらに求めていることが明らかになった。

エ 構成校において、遠隔授業を効果的かつ効率的に推進するための校内組織のモデルを構築することについて

構成校においては、副校長を中心に、教務担当、遠隔担当教諭、サポート教員と連携して遠隔授業を実施した。サポート教員アンケート結果を以下に示す。

サポート教員アンケート結果（令和5年1月）

① 機器（映像や音声、通信環境等）について

- ・ 年度当初に整備されたスピーカー・マイクが良質で、問題は感じなかった。通信速度について、年度当初は問題なかったが、年度途中から通信速度が遅くなった。
- ・ スクリーン越しのプリント画面が小さく、文字を読み取るのに苦労している生徒が見られた。
- ・ 映像や音声がかかることは少なかったが、動画の再生は、時間がかかることがあった。
- ・ ビデオ通話の処理落ちや生徒の Chromebook で Teams にアクセスできないなどが複数回あった。他の授業でもインターネットの利用は増えており、通信環境の改善が望まれる。

② 生徒の状況の把握と伝達について

- ・ コロナの影響で、授業を欠席する生徒が多く、情報伝達がうまくいかない場面があった。その都度、授業者から Teams で配信があった。生徒が確認していない場合もあり、情報伝達の状況や課題

提出の状況を確認して進めた。

- ・ 生徒は連絡されたことによく取り組んだ。Chromebook での授業も問題なく受けることができた。
 - ・ 授業者が、生徒とコミュニケーションを多くとり、こちらから生徒の様子を伝えることも少なかった。
 - ・ 授業者から生徒の手元が見えないので、理解度の把握に苦労しているように感じた。夏季、冬季休業中に行った個別課外は、1対1で生徒が解説を受けることができ、大変好評であった。
 - ・ 問題ありません
- ③ 教員間のデータのやりとりについて
- ・ ネットワークを通じて送受信しており、問題はなかった。
 - ・ 授業プリントを何度か郵送してもらった。年度途中からは、学校フォルダに通信用のフォルダを設けて、保存してもらった。問題なくやりとりできた。
 - ・ 学校フォルダに入れていただくようになり、手間が少なくなった。
 - ・ 年度途中から授業者が本校の共有フォルダにアクセスできるようになり、円滑にやりとりできるようになった。
- ④ 授業前後の準備や後片付け、接続テストについて
- ・ 設備を常設していたため、円滑に進めることができた。
 - ・ 年度当初は心理的負担が大きかった。慣れれば、準備・後片付けは問題なかった。日によって遠隔教室のパソコン自体の起動が遅いことがあった。授業者からの助言でアップデートを頻繁に行うことを勧められ、遠隔授業のない日にアップデートをするよう心がけた。接続テストで接続できないことが数回あり、携帯電話でやりとりしたこともあった。接続テストは授業開始 15 分前の設定であったが、妥当と思われる。
 - ・ 同じ教室を他の授業でも使用するため、毎回片付ける必要があった。
 - ・ 接続テストは授業開始 10 分前でいいと思う。
- ⑤ サポート教員の負担（分掌や教科との連携等）について
- ・ 受講生徒数が 9 人ということ、設備を常設したこと、自身の教科であったことなどにより、負担は比較的少なかった。ただし、出張のときは、他の職員にサポートしてもらった。
 - ・ 行事や業務多忙の日でなければ問題ない。サポート教員が出張や年次の際の対応として、各教科から 1 名サポートを選出した。選出された教員には接続マニュアルを作成し配付した。授業は自身の勉強にもなるので前向きに生徒と受講した。
 - ・ 負担に感じたことは特にありません。
 - ・ 数回やれば慣れるので、負担感はない。逆に、出張で他の教員にお願いした場合には、慣れていないため大変だったようである。
- ⑥ その他（工夫や苦労したこと、要望等）
- ・ 人数が増える場合は、個別のマイクも必要ではないか。
 - ・ 時間変更や 5 分短縮授業に、柔軟に対応していただき感謝している。
 - ・ 通信速度の改善をお願いしたい。
 - ・ 年度の一番始めの授業に対面授業をしていただいた。とても効果があったと思う。また、年度途中にも数回来校いただき対面授業をしていただいた。いろいろと調整が必要になると思うが是非お願いしたい。
 - ・ 遠隔授業は通信速度の面と生徒の心理面から単独配信が望ましいと考える。
 - ・ 授業中通信状況が悪くなった場合にサポート教員が授業者に連絡するためにホワイトボードとペンが役にたった。

- ・今年度は授業者と生徒たちがうまくかみあって穏やかに授業をすることができたと思う。感謝している。
- ・長期休業中に個人課外をやっていただき、感謝しております。

アンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・通信環境の改善が課題である。 ・年度当初はサポート教員に心理的負担があるが、回数を重ねることで解消される。 ・サポート教員の出張時の対応が必要である。 |
|--|

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

ア 学校間連携を効率的に運用するための、管理機関、C I O及び構成校の管理職等の役割と連携方法を明らかにすることについて

C I Oの業務内容

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・企画調整会議 ・課外授業に係る打合わせ ・遠隔授業担当者、県教委担当指導主事との打合せ
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回COREネットワーク推進会議 ・授業参観 ・遠隔授業研究 ・オンライン打合せ（西和賀高校） ・遠隔授業用の教材研究 ・Forms の設定、演習、活用手順書作成 ・学校教育室との打合せ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・文科省訪問対応 ・教材アプリ活用演習 ・アンケート分析 ・学校教育室との打合せ
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育情報化担当 I C T支援員との情報交換 ・実証地域連携会議資料まとめ ・授業参観 ・Teams に関する自己研修 ・学校教育室との打合せ
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・Teams 活用研修 ・学校訪問（西和賀高校） ・企画調整会議 ・学校教育情報化担当 I C T支援員との遠隔授業研修会 ・学校教育室との打合せ
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観

	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T活用に係る学校情報のQ C Mとの共有 ・ 教材作成研修 (PowerPoint による動画コンテンツ作成) ・ I C T活用授業の資料閲覧 ・ 学校訪問、授業参観 (花巻南高校) ・ 学校教育室との打合せ
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ 授業動画撮影 (公欠者・欠席者等学習支援用) の立会 ・ 「ぐんまハイスクール・NW構想」研究授業視聴 ・ ネットワーク設定自己研修 ・ I C T活用授業の普及・啓発方策の検討 ・ 学校教育室との打合せ
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ 学校訪問、授業参観 (花巻農業高校) ・ 第2回実証地域連絡会議資料閲覧・記録動画閲覧 ・ 学校教育室との打合せ
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ 第2回実証地域連絡会議記録動画視聴・まとめ資料作成 ・ 公開授業 (山田高校遠隔授業) の動画視聴、担当内での授業の振り返り ・ C O R E 事業に係るまとめ資料作成 ・ Q C Mとの打合せ ・ 学校教育室との打合せ
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ 山形県教育庁視察対応 ・ 次年度開設科目等打合せ ・ 次年度時間割検討 ・ 新潟県公開授業動画視聴 ・ 対面授業参観 (花泉高校) ・ 第2回C O R E ネットワーク推進会議 ・ 学校教育室との打合せ
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ F I Rセンター引継会 ・ 学校教育室との打合せ

C I OはI C T教育に明るい退職校長を任用した。主として配信拠点である岩手県立総合教育センターに駐在し、事業全体の運営実務を統括・担当した。遠隔授業担当者のアドバイザーとして指導方法等について指導・助言するとともに、遠隔教育を実施していく中で明らかとなったハード・ソフト両面での課題を整理した。授業担当者の相談役、構成校管理職への協力依頼等の役割も担い、事業推進に大いに貢献している。

管理機関、C I O、授業者担当者の定例打合せを毎週金曜日に実施した。主に、授業実施状況の確認や課題への対応を検討した。連絡を密にとり、情報を共有しながら連携でき、事業推進に効果的であった。

イ 学校間連携による授業研修モデルを構築することについて

7月に配信教員研修会を実施した。配信教員3名中1名は前年度から引き続き遠隔授業を担当しているが、他の2名は今年度から担当している。経験のある1名が、他の2名に遠隔システムの操作、生徒用PCの操作について研修した。

授業中に生徒が行う機器操作について理解することにより、授業での指示が明確になった。

遠隔授業配信センター教員研修会

R4.7.27～7.28

1 生徒用端末Chromebookについて

(1) 生徒用端末についてDynabook Chromebook C1SH-W02 (GIGAスクール構想の標準仕様適合モデル)

(2) 起動・終了について

生徒は、Chromebookを開いて起動、閉じると終了する。自動的にログアウトする仕様になっている。ログインが必要な場合はログインやログアウトを行う。

(別の方法として、電源ボタンを押して起動。終了は画面右下の「バッテリー」アイコンをクリックし、表示されるメニューから電源マークをクリックする。)

(3) 各部の名称、外観、付属品等

ノートPCモード、テントモード、メディアモード、タブレットモードがある。バッテリー駆動時間は約10時間。90分で90%回復の急速充電。

(4) その他

- ・ スタートボタンはなく、左下にあるランチャーや下のシェルフから作業スタートする。
- ・ 画面右下のステータストレイ内で、Wi-Fi、Bluetooth、日時、電源残量、音量、明るさ、入力方法、ユーザー情報等を設定できる。
- ・ Chromebookはデータをオンラインストレージに保存→自動的にgoogleドライブへ保存。(Chromebookに保存していたものを、googleドライブへアップロードもできる)
- ・ 基本的にオンラインで使用しているため、自動的にアップデートされる。
- ・ ChromeOSであり、MicrosoftのExcelやWord、PowerPointなどはブラウザ上で使用する。
- ・ キーボードに「Windowsキー」や「Deleteキー」はない。(削除は、←かAlt+←)
- ・ ファンクションキーがなく、音量、明るさ、再読み込み等のボタンがついている。
- ・ 右クリックがないため、画像のコピーなどは、二本指でのタップやCtrl+cやCtrl+vを使う。

(5) Chromebookで写真を撮影しTeamsにアップするまでの流れ

- ① Chromebookをタブレット型にする。
- ② 下からスワイプし、カメラを起動する。
- ③ 右横の○ボタンを押し、撮影する。
- ④ 撮影ボタン下の○で撮影した画像を確認。取り直しはもう一度②、③を行う。
- ⑤ 下からスワイプし、Chromeを起動するとTeamsに戻る。
- ⑥ 新しい投稿をクリックし、必要に応じてコメントを入れる。
- ⑦ 添付マークを押して、このコンピュータからアップロードを押し、撮った写真を選び、送信ボタン▶を押す。

- ⑧ 送信ボタンを押すと、「アップロード中」となる。
- ⑨ アップロードされたら、もう一度送信ボタンを押す。
- * 撮った写真の一覧は、ファイルの中で確認する。
- * 撮影モードをスキャンで撮影すると、トリミングの操作が不要になる。
- * スマートフォンで撮影した画像も投稿できる。
- * 動画も同様の操作で撮影、アップロードできる。

2 ICT活用について

(1) Teamsへの投稿やファイル共有の活用について

- ・ テスト範囲や連絡事項等の投稿を行う。
- ・ 復習用としてファイルタブに授業プリントやパワーポイント等を入れておく。
- ・ 投稿で質問することに抵抗がある生徒が多いため、Formsで質問を受け付ける。
- ・ 生徒に必ず知らせたい投稿にはメンションをつける。

(2) Teams上での共同編集について

Excel、ホワイトボード等を活用して行う。(Word、PowerPointも使用可)

(3) 生徒との課題のやりとりについて

Teamsを活用した課題の割り付け、提出、返却(提出状況の確認、一人ひとりへのフィードバックが可能)

(4) スマートフォンを使用した場合のTeamsの画面の見え方の違いについて

PCとは異なり、スケジュール確認からすぐに会議に参加できる。

(5) 動画の編集について

配信スタジオPCのビデオエディタで編集して、必要な部分のみ生徒へ提示できる。

(6) insightの活用について

Teams内のinsightの活用により、生徒のTeams利用時間を見ることができる。



写真：研修会の様子

また、県内高校関係者への周知を図るとともに、遠隔授業の質的向上のための取組の充実を図るために公開授業を行った。

令和4年度イーハトーブCOREハイスクール・ネットワーク構想遠隔授業公開授業について

1 目的

公開授業を通し、関係者への周知を図るとともに、遠隔授業の質的向上のための取組の充実を図る。

2	期日 令和5年1月19日(木)								
3	公開授業 山田高校 遠隔授業「化学」								
4	方法等 遠隔授業配信拠点(県立総合教育センター2階)から山田高校へ配信する授業を、配信拠点又は山田高校で参観する。								
5	日程 配信センター、山田高校ともに同日程 <table border="0"> <tr> <td>受付</td> <td>10:20~10:40</td> </tr> <tr> <td>事業説明</td> <td>10:40~10:50</td> </tr> <tr> <td>公開授業</td> <td>10:55~11:45</td> </tr> <tr> <td>諸連絡</td> <td>11:50~11:55</td> </tr> </table>	受付	10:20~10:40	事業説明	10:40~10:50	公開授業	10:55~11:45	諸連絡	11:50~11:55
受付	10:20~10:40								
事業説明	10:40~10:50								
公開授業	10:55~11:45								
諸連絡	11:50~11:55								
6	参加者 県立高等学校において、遠隔授業やICTを活用した授業に興味・関心のある教員のうち参加を希望する者								

参加者16名。参加者アンケートの結果は以下のとおり。

公開授業参加者アンケート結果(令和5年1月)

- ① 本日の公開授業に参加して、遠隔授業についての理解は深まりましたか。

「深まった」	100.0%
「やや深まった」「あまり深まらなかった」「深まらなかった」	0.0%

- ② 本日の公開授業に参加して、遠隔授業への興味・関心の度合いはどのようになりましたか。

「強くなった」	100.0%
「やや強くなった」「あまり強くならなかった」「強くならなかった」	0.0%

- ③ 本日の公開授業は、授業でのICT活用の参考になりましたか。

「参考になった」	100.0%
「やや参考になった」「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」	0.0%

- ④ 感想等自由記述

- ・ 思ったより会話や添削などの生徒とのやりとりがあって、臨場感のある授業になっていた。
- ・ 想像以上に対話的な授業ができることが印象的でした。
- ・ 私の専門外の科目でしたが大変分かりやすく面白い授業でした。
- ・ 授業者と生徒のやりとりが非常に近く感じて、遠隔授業のイメージが大分変わりました。
- ・ 導入の場面で実際に生徒にゴムを持たせ、ただ聞くだけではなく場面々にメリハリがあり良かった。
- ・ Teamsによるファイルや画面の共有等非常に参考になりました。このような授業を初めて見学しました。
- ・ 今回の授業で工夫されていることや見えないテクニックがあると思いますので、それを県内の教

員の間で共有できるようにして欲しいです。

- ・ 生徒の学ぶ意欲を高めるため、ハードを支える皆さんも、ソフトを支える皆さんも最大限のご努力をいらっしゃることが伝わりました。
- ・ どうすれば送信側、受信側のご苦勞を軽減できるのか引き続き研究していただけるとありがたいと思っております。
- ・ 普段は受信校からの様子しかわかりませんが、配信センター側からの授業を見ることができてよかったです。

アンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 公開授業により、実際の遠隔授業を参観することで、参観者の理解が深まり、興味・関心が高まる。・ 遠隔授業実施で得られた知見を、対面での授業のICT活用のために周知することが望まれる。 |
|---|

ウ 遠隔授業や探究的な学び等について、特色的な取組をしている構成校に関する情報を、オンラインを活用して共有するシステムを構築することについて

県教育委員会は、令和4年2月 note 株式会社と連携協定を締結し、全県立高校の note アカウントを開設した。令和4年度の、構成校からの投稿による情報発信回数は次表のとおり。県教育委員会アカウントには、全県立高校の探究活動の投稿を掲載し、令和4年度の掲載記事は561件である。

	情報発信回数
葛巻高校	50回
西和賀高校	32回
花泉高校	13回
山田高校	16回
種市高校	11回

県立高校共通のプラットフォームを利用することで、各高校の情報発信を集約することができた。

2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

(1) 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

ア 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		40%	45%	50%
実績値	40%	55%	60%	
把握のための測定方法及び指標	ベネッセの基礎力診断テスト（数学）を活用する。母集団に対するCゾーン以上の生徒の割合の向上を図る。			

令和3年度：目標値を上回った。今年度は試行授業のため参考値。

令和4年度：目標値を上回った。

イ 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		5	4	3
実績値	5	10	8	
構成校の数	5			

令和3年度：目標値を下回った。今後、構成校のニーズや県内の状況を踏まえ、人事担当部署と連携しながら目標の達成を目指す。

令和4年度：目標値を下回った。次年度は免許外教科担任制度の活用が多い科目を配信することとしている。

ウ その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標：遠隔授業に係るアンケート結果における理解度

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		60%	80%	100%
実績値	-	63%	96%	
目標設定の考え方	構成校5校における、年間を通じた授業に係るアンケート（4件法）の「よくわかる」「わかる」の割合により、事業の成果を見取る。			

令和3年度：目標値を上回った。本格実施においてはさらなる向上を目指す。

令和4年度：目標値を上回った。多くの質問項目で肯定的回答が多数を占めている。

(2) COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

ア COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	4	6	
見込み		2	11	11

令和3年度：目標値を上回った。

令和4年度：目標値を下回った。次年度は目標を達成する科目数の開設とした。

3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

3.1. 調査計画

コンソーシアムの構築及び運営を支援し、これまでの各校における取組の充実・発展を目指すとともに、教職員対象の魅力化フォーラムを開催し、コンソーシアム間の情報共有を図る。

関係者からのアンケートや聞き取りにより、随時評価・改善を行う。

3.2. 実施体制

ア 県教育委員会事務局学校教育室

事業全体の統括

イ 運営指導委員

・岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 市川 尚

・岩手県ふるさと振興部地域振興室 特命課長 増澤 亨

ウ C I O (会計年度任用職員)

エ Q C M (Q u a l i t y C o n t r o l M a n a g e r)

主として各構成校の地域との協働による取組等について、指導・助言を行う。

オ 構成校

3.3. 取組概要

月	実施内容
4年4月	・社会体験プログラム「魅力発見ラボ」開始（西和賀高校） ・第1回企画運営会議 ➤令和4年度の年間計画の確認
5月	・構成校訪問（県教委事務局） ➤実施状況確認、聞き取り ・魅力化フォーラムの開催 ➤参集参加66名、オンライン参加39名、計105名 ・第1回魅力化コンソーシアム会議（葛巻高校） ・第1回学校運営協議会（西和賀高校） ・花泉支所出前講座（花泉高校） ・第1回学校運営協議会（種市高校） ・探究町巡り学習・町長講話（種市高校）
6月	・第1回COREネットワーク推進会議 ➤令和4年度年間計画の確認 ・地域関係者連絡会議（花泉高校） ・第1回学校運営協議会（山田高校）
7月	・第1回実証地域連絡会議（内田洋行主催） ・文部科学省による視察（花泉、種市、山田高校との情報交換）
8月	・第2回企画運営会議
9月	・第2回学校運営協議会（山田高校）
10月	・第2回学校運営協議会（西和賀高校） ・地域史学（フィールドワーク）（花泉高校） ・第2回学校運営協議会（種市高校）

1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回実証地域連絡会議（内田洋行主催） ・ 探究発表会（種市高校）
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ We b ヒアリング（内田洋行主催、葛巻、西和賀高校参加） ・ 愛知県、広島県視察（県教育委員会） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 愛知県総合教育センター、広島県教育委員会事務局、広島県立福山誠之館高等学校 ・ 第 2 回魅力化コンソーシアム会議（葛巻高校） ・ 地域課題研究発表会（花泉高校） ・ ふるさと探究発表会（山田高校） ・ 第 3 回企画運営会議
5 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生議会（山田高校）
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業成果報告会（内田洋行主催） ・ 第 2 回 CORE ネットワーク推進会議 ・ 探究成果報告会（葛巻高校） ・ 第 3 回学校運営協議会（西和賀高校） ・ 地域関係者連絡会議（花泉高校） ・ 第 3 回学校運営協議会（山田高校） ・ 第 3 回学校運営協議会（種市高校） ・ 第 4 回企画運営会議

3.3.1. 地域と協働した取組実績

各校の特徴的な取組

(1) 葛巻高校

- ・ くずまき山村留学

東北一の酪農郷・北上山地の大自然に囲まれた緑豊かな高原の町「くずまき」で、積極的に学ぶ意欲のある生徒を全国から募集。

- ・ 葛高ミライノカタチ プロジェクト

葛巻高校のスクールポリシーを柱に、教職員の専門性や知識を活かし地域の魅力探究に加え、アカデミックな内容も含めて、生徒の探究活動を行う。

1 学年：葛巻を知る。探究活動を知る。

2 学年：葛巻で探究する。

3 学年：まとめる。



(2) 西和賀高校

- ・ いのち輝く百年創造塾

西和賀町をフィールドとして、地方創成に寄与する人材を育成する実践的・探究的学習プログラム

- ・ 地域人材との連携・協働、地域資源の活用。
- ・ 地域社会に対する理解を深め、自ら問いを形成し、課題を設定。
- ・ フィールドワーク等の実践的学習と、課題解決に向けた探究活動。
- ・ 西和賀町の魅力の再発見と発信。
- ・ 社会の一員としての自己の在り方生き方の探究。

- 魅力発見ラボ

町内事業者で結成しているユキノチカラプロジェクト協議会と連携した社会学習プログラム。

西和賀高校生が町内の事業者、県内のデザイナーと共に、地域資源を活かした商品やサービスの開発に取り組むプロジェクトで、地域の魅力を探すリサーチツアー、事業者との企画打ち合わせ、ご当地 LINE スタンプの企画などに取り組んでいる。



(3) 花泉高校

- 花高魅力化プロジェクト

地域課題研究や地域史学、地元小学校との交流活動など、地域を題材とする活動を中心に、キャリア教育や主権者教育に取り組む。

地域課題研究では、全校生徒が縦割りのグループに分かれて、地域を題材として探究活動を行う。

今年度は、「伝統文化・芸能」、「歴史」、「地域おこし・暮らし」、「福祉」、「農業・畜産業・林業」、「観光・名所・名産」、「ものづくり」、「復興・防災」の8分野10グループに分かれて活動。



(4) 山田高校

- ふるさと探究

各学年で山田町に関することを知り、発表しあい、学びを深める。学年ごとに設定した大テーマに基づいた探究学習を行う。

1 学年「碑の記憶」：先人たちが紡いできた教訓や津波伝承碑に触れ、復興や防災について、考えを深める。

2 学年「復活の記憶」：地域の事業所でのインターンシップを通じて、地域の復興や未来について考えを深める。

3 学年「明日への提言」：フィールドワークやグループワークを通じて、地域の課題を探究することで、地域の未来について考えを深める。高校生議会を開催し、山田町への提言を行う。



(5) 種市高校

・ 地域探究学習

地域探究や課題研究を通して自己理解を深めるとともに、社会に目を向け、地域との結びつきを探究することにより、自分自身の在り方や生き方に関して主体的に活動する。

興味関心のある分野と地元の課題を結びつけたテーマ設定をする。(持続可能な海洋資源(プラスチック問題)、多文化共生、言語支援、南部菱刺しなど)

「防災グッズ」「防災マップ」「防災ゲーム」を活用した探究学習の実施し、中学校での成果発表を行う。



3.4. 取組内容

市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

ア これまでの各校における取組をさらに充実・発展させ、中山間地域の学校間での交流や、地域と連携した探究的な学びのモデルを構築することについて

本県では、令和4年度内に地域との協働のための話し合いの場を設定することを努力義務としており、コンソーシアム等の設置に向けて県内各高等学校が準備を進めている。構成校は設置済みまたは設置準備中である。

イ 各構成校のコンソーシアム間の情報を円滑に共有し、各校の教育水準の向上を実現する運営体制のモデルを構築することについて

全県立高等学校が高校魅力化に取り組むにあたり、先行事例・好事例を共有することにより、取組推進の手がかりとするとともに、機運の醸成を図ることを目的に、魅力化フォーラムを参集により開催した。会場からオンラインでの配信も行った。

3.5. 考察

市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

ア これまでの各校における取組をさらに充実・発展させ、中山間地域の学校間での交流や、地域と連携した探究的な学びのモデルを構築することについて

構成校においては、学校運営協議会等を母体として、地域関係者とのコンソーシアムを構築済みまたは構築中である。

本事業の構成校における連携先または調整先は次表のとおりである。

表：コンソーシアムの構成

【学校名：岩手県立葛巻高等学校】

機関名	機関名
葛巻町教育委員会	葛巻町観光協会

葛巻町小中学校校長会	葛巻町PTA連合会
葛巻町商工会	いわて地域づくり支援センター
葛巻高校同窓会・PTA	

【学校名：岩手県立西和賀高等学校】

機関名	機関名
西和賀町教育委員会	盛岡大学
西和賀町立沢内中学校	西和賀町商工会
西和賀町立湯田中学校	ユキノチカラプロジェクト協議会
北上信用金庫	西和賀高校同窓会・PTA

【学校名：岩手県立花泉高等学校】

機関名	機関名
一関市教育委員会	一関市役所花泉支所
一関市立花泉中学校	花泉市民センター
花泉地域教育振興運動推進委員会	花泉高校同窓会・PTA

【学校名：岩手県立山田高等学校】

機関名	機関名
山田町教育委員会	山田町体育協会
山田町役場	山田町商工会
山田町立社会福祉協議会	山田高校を支える会
山田高校PTA	

【学校名：岩手県立種市高等学校】

機関名	機関名
洋野町教育委員会	洋野町役場
洋野町立種市中学校	洋野町商工会
(株)岩本電機	高校魅力化パートナー

コンソーシアムの体制・運営について、構成校からの聞き取りにより明らかになったことは次のとおり。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な方を構成メンバーとすることで、地域と連携した学びの協力体制が構築される。 ・ 学校及び地域が目的を共有し、会議の回数を重ねることで、委員同士のコミュニケーションが図られ、活発な議論につながる。 |
|---|

イ 各構成校のコンソーシアム間の情報を円滑に共有し、各校の教育水準の向上を実現する運営体制のモデルを構築することについて

県教育委員会が主催し、魅力化フォーラムを開催した。参集参加 66 名、オンライン参加 39 名、計 105 名が参加した。

令和4年度 岩手県立高等学校 魅力化フォーラム 開催要項

1 目的

「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」の実施において、全県立高等学校が「高校魅力化」に取り組むにあたり、先行事例・好事例を共有することにより、取組推進の手がかりとするとともに、機運の醸成を図るもの。

2 期日

令和4年5月10日（火）10:00～15:30

3 場所

サンセール盛岡

- ・1階大ホール（受付、全体会、地域連携分科会）
- ・2階中ホール（産学連携分科会）
- ・3階大ホール（学術・国際連携分科会）

4 対象

全県立高等学校 63校から各1名参集

なお、会場からオンラインで配信し、各校1台程度のPCにて視聴可能とする。オンラインでの接続方法や資料等に関して、後日、別途連絡すること。

5 日程

【全体会】

9:40～10:00 受付

10:00～10:15 開会行事

10:20～12:00 基調講演「教育の魅力化をどう進めていくか

～隠岐島前の教育魅力化のこれまでとこれから～

講師 豊田 庄吾 氏

（海士町役場 ひと・学び・還流づくりジェネレーター）

質疑応答・補足説明

13:00～13:40 講演「高校魅力化の全県展開はどのように進むのか」

講師 菅野 祐太 氏 （高校魅力化プロデューサー）

質疑応答・補足説明

13:50～14:30 概要説明「noteを使った学校の情報発信」

講師 青柳 望美 氏 （株式会社 note ディレクター）

質疑応答・補足説明

【分科会】

14:45～15:30 事例発表・質疑応答・助言（3分科会に分かれて実施）

・地域連携分科会 岩泉高校（魅力化促進）

K I Z U K Iプロジェクト等について

・学術・国際連携分科会 花巻北高校（探究プログラム）

スペース・プロジェクト等について

・産学連携分科会 宮古水産高校（魅力化促進）

宮古トラウト・サーモン知る・作る・食べる等について

15:30

閉会

参加者アンケートの結果を以下に示す。

魅力化フォーラムアンケート結果（回答数 57、令和 4 年 5 月）

	とても参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
基調講演	48	8	1	0
(主な意見)	<ul style="list-style-type: none"> 島根や大槌の事例が少なめで枠組みや考え方の話がメインとなっており、参考になる点が多かった。 取り組み、考え方など参考になりました。全体ではなかなか質問できる雰囲気ではないが、身近な席の先生方といろいろな情報交換できたのが良かったです。 コーディネーターがいなくともとは言うものの、数年で担当が変わるため担当者の負担は解消しないのではないか。 豊田氏が話されていたように、教育の魅力化とは学校・地域の関係者で対話しながら探究・実践し続けることだと改めて感じた。資料を配付してくださったのは大変ありがたい。 コーディネーターが不在で教員が代行する場合のスタンス（周囲への働きかけ、重要な視点等）を確認することができ、大変有意義でした。今回のフォーラム視聴について「魅力化・ふるさと創生事業」への共通理解も含めて、全職員に周知するよう働きかけを行いました。高校魅力化の取り組みは、探究学習のみならず、様々な学習活動において実践すべき内容であることを職員で共有していきたいと思います。 島根を参考としながら本校ならではの本校だからこその魅力づくりを目指します。 			
講演	40	17	0	0
(主な意見)	<ul style="list-style-type: none"> 高校の魅力化、ひいては地域の魅力化、県の魅力化を進めるというのであれば、校種問わずに全県的な体制で取り組むと、より効果的なのかなと感じました。 探究的な学びがなぜ大切なのかについて、その理念やカリキュラムの事例、連携のあり方について学ぶことができ、参考になった。 社会に開かれた高校教育の必要性を再認識できた。地域連携の難しさに悩んでいたが、まずはやってみる、とのアドバイスに勇気をもらいました。 			
概要説明	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信についても、やってみることが大切だと感じた。決裁方法など課題もあるが、どんどん挑戦して進めていきたい。 			
分科会	<ul style="list-style-type: none"> 進学校や専門高校、定時制など多様な高校があるため、総論的な話よりは、分科会での具体例の話が興味深かった。 具体的な探究活動の事例について知ることができ、大変意義深かった。所属校ではどのような探究的な学びが考えられるのか、今後議論していきたい。 			

全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体会では探究的な学びがなぜ大切なのかについて、その理念やカリキュラムの事例、連携のあり方について学ぶことができ、参考になった。分科会では具体的な探究活動の事例について知ることができ、大変意義深かった。所属校ではどのような探究的な学びが考えられるのか、今後議論していきたい。 ・ 民間の方の意見、発想は、よい刺激になる。今後、関係団体、地域の方々との語らいを大切にしていきたいと思います。 ・ 参集開催により、講師の先生方から直接思いのこもったご講演を聞くことができ、有意義であった。 ・ 昨年も参加したが、1年経過し、かなり具体的な内容になってきていると感じた。大変参考になる事例等が多く、とても有意義な研修会であった。 ・ オンライン視聴も同時開催だったので、学校に残っている職員も研修に一部参加できてよかった。 ・ 学校外の機関や人と連携しようとする場合、どういう進め方をしていけばよいのか悩んでいたもので、背中を押してもらえそうな時間になった。 ・ 学校の総探をいかに高校の魅力化と結びつけるかは、教員側に与えられた課題研究でもあると思います。私たち教員は常日頃、生徒に課題研究をさせたり、さまざまな事柄に挑戦させたりしていますが、生徒にさせるだけではなく、自らもそういう姿勢でこの事業に向き合いたいものです。本フォーラムが、集う先生方からのさまざまなアイデアや、問題点を出し合える、この事業の求心力となることを期待いたします。
--------	--

アンケート結果から明らかになったこととして、次のような事柄が挙げられる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力化フォーラムにおける、講演、事例発表、情報交換等により、参加者の情報共有が図られ、有意義な研修会となる。 ・ 魅力化事業担当者は地域連携の重要性を認識しており、所属校での探究的な学びを検討している。
--

3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

(1) 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数

(総合的な探究の時間を含む。)

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値	/	15	19	25
実績値	15	15	17	

(参考) 上記のうち、学校設定科目の数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値	/	2	4	6
実績値	0	0	0	

令和3年度：目標値を上回った。すべて総合的な探究の時間であり、学校設定科目は含まれない。

令和4年度：目標値を下回った。各校では総合的な探究の時間で地域課題解決等の探究的な学びを実施した。国語科及び地歴・公民科において、総合的な探究の時間と連動した学びを実践した。次年度は探究的な学びについて、教科内や教科間での横断的な取組も含めて拡充を図る。

(2) COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

ア 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	17/63	23/63	36/63	
見込み		30/63	45/63	63/63

令和3年度：目標値を下回った。すべての県立高等学校について、令和4年度中の構築を努力目標としている。

令和4年度：目標値を下回った。各校において、令和5年度構築に向け検討を継続している。

イ その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標：学校と市町村等の関係者との探究活動に関する協議の場（構成校5校）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	1	5	13	
見込み		4	6	10
活動指標の考え方	各構成校のコンソーシアムと学校関係者の協議の場が、1年間に開かれる回数。			

令和3年度：目標値を上回った。コンソーシアム等の構築と並行して、今後増加する見込みである。

令和4年度：目標値を上回った。構成校において、年2回以上協議の場を設定した。

4. まとめ

「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組、学校間連携を行うための運営体制に関する取組、及び地域等との協働によるコンソーシアムについて、前述2. 5及び3. 5で考察のとおり
の知見を得ることができた。

今年度の事業において、教育課程内での遠隔授業の本格実施により、教育の機会の保障と教育の質の保証を実現できた。また、コンソーシアムの構築、魅力化フォーラム、地域との協働により、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりを推進できた。

次年度も引き続き、本事業による研究を通して教育環境の整備を進め、地域を担う人材を育成するための知見を得たい。

事業終了後は、本事業の研究成果を基盤として、県内の中山間地域への遠隔授業を継続・拡充するとともに、地域の教育資源を活用した、探究的な学びの推進を継続したいと考えている。

5. 次年度に向けた計画概要

5.1. 明らかにしたい事項

次年度事業を通じて明らかにしたい事項は次のとおり

- ・ 持続的な遠隔授業実施のための体制
- ・ 科目数及び受講生徒数の増加に伴う課題
- ・ 授業づくり、生徒の見取り、評価について、より効率的かつ効果的な方法
- ・ 地域との協働による探究的な学びの在り方
- ・ 中山間地域の教育資源を活用した取組の共有方法

5.2. 重点的に取り組む内容

【遠隔授業】

2年目の課題を検証する。配信科目の増加、受講生徒数の増加における課題を検証する。3年間の総括をし、次年度以降継続するための計画を策定する。また、県内の各学校に成果の周知をして普及を図る。

【地域との協働による探究活動】

2年目の成果と課題を踏まえて実施する。全県の生徒・教員・関係者を対象とした、探究活動発表会を開催し、生徒同士の学びの場を創出するとともに、県内の各学校に成果の周知をして普及を図る。

5.3. 実施体制

教育委員会内にプロジェクトチームを設置し、課題の整理と検討を行う。